



No24

# 建廃協NEWS

建設廃棄物協同組合 総務部会 広報委員会

topic.1

## ツネシカムテックス(株)、(株)トクヤマ 視察



2月13・14日に、日建連と合同で、ツネシカムテックス(株)福山工場、(株)トクヤマの見学をさせていただきました。

ツネシカムテックス(株)は、新規に石綿溶融施設を導入し、独自技術で無害化に成功し無害化处理認定施設になっています。また、溶融スラグをショットブラスト材として商品化することや、廃酸・廃アルカリの中和処理施設の建設など、新しい技術への取り組みがなされている旨、説明がありました。今まで培ってきた、産業廃棄物処理の技術を生かし、ベトナムへ進出した他、タイ、バンラディッシュについても検討しているなど、事業の海外展開に積極的である様子がうかがえました。

(株)トクヤマは、化学メーカーとして、様々な基礎化学原料を製造する一環でセメントの生産を行っているのが特徴でした。昨今の景気回復に伴い、セメントの出荷も好調であり、ほぼフル生産の状態であるとの事でした。外航船も着岸可能な専用バースを有する立地を生かし、原料、廃棄物とも、水運を有効に活用しているとの説明がありました。セメント部門に於いては、以前から積極的に廃棄物の利用が行われて居り、自社内で発生する廃棄物を有効利用している関係から、今後、原料代替となる廃棄物の受け入れを拡大する余地は小さいようでした。しかし、燃料代替となる廃プラスチック等に関しては、受け入れ量を拡大したいとのことで、これらの処理施設も見学させて頂きました。廃棄物を燃料として利用するに当たっては、発熱量の安定、塩素対策、混入異物への対応等、様々な問題があるとの事でした。建設廃棄物由来の廃プラスチックを、有用な燃料として受け入れてもらうには中間処理業者として益々の工夫が必要であると感じました。また、為替により、これら代替燃料よりも輸入石炭を使用する方が、商業的には有利な状況も生じる場合もあるようです。この点も、廃棄物を安定して再利用していく上で難しい問題であると感じました。

レポート 株式会社大空リサイクルセンター 田沼貴之

## topic.2 青年部 石坂産業(株)見学

2月6日(木) 青年部を中心に38名で石坂産業株式会社見学を行いました。石坂産業株式会社は組合員ではありませんが、100%持込という形態をとる中間処理業者であり、工場見学コースはとても綺麗で整然とした様子でした。出会う従業員の方々も全員笑顔で挨拶が徹底されていました。ギャラリースペースでは、処理フローや処理後物がどのようにリサイクルされているか、環境への取組等がわかるようになっていました。工場へは専用通路があり安全に見学でき、そこから見える重機は電動で動いていました。その他、遮熱塗料の利用、太陽光発電、雨水再利用での洗浄、二重扉での出入り、集塵機も紹介をしていただきました。青年部初の工場見学会でありましたが、それぞれどのように感じ、今後活かしていけるかが楽しみであります。

この場をかりまして、組合員でないにもかかわらず団体での見学を受けてくださりありがとうございました。



## topic.3 お知らせ

※建廃協NEWS21号の回答を22号に載せましたが、間違いがありましたので訂正しお詫び申し上げます。

問7 政令指定都市(A)の収集運搬許可が必要な場合は？

- ア 排出場所が政令指定都市(A)内にある場合
- イ 収集運搬業者が政令指定都市(A)内に中間処理施設を有している場合
- ウ 収集運搬業者が政令指定都市(A)内に保管積替施設を有している場合
- エ 収集運搬業者が政令指定都市(A)内に本社(管理部門)のみを有している場合

問7の答はイとウで掲載しましたが、ウのみが正しい答です。

※毎年行っております基礎講習会は4月22日(火)  
日本教育会館で行うことが決定しました。申込はこちら。

